

【生薬名】 百合 *LILII BULBUS*

【起源植物】 オニユリ *Lilium lancifolium*



【科名】 ユリ科 *Liliaceae*

【別名】 卷丹（中国）、天蓋百合

【薬用部分】 鱗片

【主成分】 粘液質、澱粉、タンパク質、脂肪、アルカロイド

【薬性】 気味は甘平、帰経は心肺脾に属す

【効能】 ●潤肺止咳・寧心安神

●肺結核の咳、乾燥性の慢性咳嗽、気管支炎、肺炎に1日10~30gを水500mlで煎じて3回に分けて飲む

●口内炎、鼻血、精神不安に1日10~20gを煎服する

●日射病などで口渇や顔面紅潮、尿の濃縮などの症状に1回5~10gを水300mlで煎じて服用

●百合は心・肺・脾の三経に入り、清肺、養脾の効があり、又、止渴、鎮咳の作用がある。強壯、鎮咳、去痰薬、乾燥性の咳嗽及び吐血に効があり、消炎、鎮咳、鎮静、滋養強壯、解熱、利尿、止血薬として応用される。ある種の精神科疾患、子宮位置異常にも用いる

【出典】 ●治邪氣腹脹心痛。利大小便。補中益氣。（神農本草經中品）

●百合 味甘、心を安んじ、胆を定め、嗽を止め、浮を消し、癰疽啖う可し。（薬性歌）

●金匱要略・百合病に百合一連の処方が記載されている

【備考】 ●百合は縄文時代から重要な食料として活用されてきた

●日本ではオニユリ⑤、ヤマユリ④、ササユリ⑥が百合として用いられる

【処方例】 ●百合知母湯、滑石代赭湯、百合雞子湯、百合地黄湯、百合滑石散、百合洗方辛夷清肺湯、百合固金湯